

夏

号

Aug. 2017 / No.3

News Letter

架 け 橋

住み慣れた地域でいのちをつなぐ



発行元

公益社団法人 京都保健会
京都協立病院あやべ協立診療所
ふくちやま協立診療所
まいづる協立診療所
た ん ご協立診療所「京都民医連中央病院の総合移転と
北部地域の役割」北部地域管理会議 責任者
京都協立病院 院長

門 祐輔



京都民医連にとっても、京都保健会にとっても最大の事業である京都民医連中央病院総合移転が始まります。

北部地域の私たちがやるべきことは、医療資源の少ないこの地域の医療を支えることと、職員育成とりわけ医師養成に寄与することだと考えます。

京都協立病院は2014年に療養型病棟を回復期リハビリテーション病棟（以下、回りハ病棟）へ転換し、一般病棟の多くを地域包括ケア病床へ転換するなど大きく構造転換しました。

綾部市では、綾部市立病院が急性期、本院が回復期、あやべ協立診療所を含め地域の開業医や介護事業所が生活期・在宅の役割を担い、連携して「地域包括ケア」体制を担っています。綾部市立病院に地域包括ケア病棟ができ、本院回りハ病棟への紹介は減りましたが、舞鶴医療センターから脳卒中患者がコンスタントに紹介され、福知山市民病院からの紹介やドクターヘリで綾部から豊岡へ運ばれる患者が紹介されるなど、中丹医療圏やそれを越えた連携を行っています。京都府北部の他の回りハ病棟は、自分たちの病院で行った整形外科術後患者を診ることが中心で、脳卒中患者を意識的に診ている病院は本院しかありません。本院のリハビリ分野の機能を高めることは、京都府北部

のリハビリ医療の質を高めるということを自覚して存在意義を発揮したいと思います。

一般病床や地域包括ケア病床は主に在宅患者・家族を支える機能を果たしています。多職種で病気の診断・治療、在宅や施設へ戻る条件の整備に努めています。困った時の「かけ込み寺」としての役割が期待されています。

あやべ協立診療所は2015年4月の改築を機に、綾部市から医療に強い「認知症カフェ」の開設を依頼される、綾部で唯一複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）を開設するなど、地域になくてはならない役割を果たしています。

まいづる協立診療所のある舞鶴市は、2004年に舞鶴市民病院内科医師全員が退職するという「医療崩壊」が日本で最初に生じたところでした。京都府北部で唯一心臓血管外科、脳外科機能があるのが舞鶴市ですが、急性期機能が3病院に分かれて非効率、病院一般内科外来が脆弱で紹介患者しか受けられない、小児科医の退職など、医療の基本的な機能が脆弱です。それだけに診療所の役割は重要で、まいづる協立診療所への期待は極めて大きいです。

福知山市は福知山市民病院が急性期機能をほぼ一手に担っていますが、その機能に比して病床数が少ない

ため早期の退院が多く、重症在宅患者がたくさんいます。ふくちやま協立診療所はこうした患者の受け皿となり、デスカンファレンスへの参加などを通じて信頼関係を得ています。週1回の外来を行う2つの診療所しかない三和町の在宅医療はほぼすべてふくちやま協立診療所が行っており、地域になくてはならない診療所です。

たんご協立診療所は京都保健会公益事業の一つであるへき地医療への貢献を果たしており、訪問看護ステーションゆたかのと合わせて地域で重要な役割を果たしています。

京都市内とは環境が異なる北部地域での経験は、初

期研修医や家庭医療を志す専攻医にとって貴重な体験になります。現在は主に京都協立病院の病棟・外来とふくちやま協立診療所の訪問診療が研修の場であり、期間の長短はありますが研修医がたくましく育つ場となっています。かつてはたんご協立診療所での受け入れも行っており、今後あらゆる事業所が研修の場とされるよう検討していきたいと思います。

北部地域は、絶対的に医療資源が不足しており、医師体制があれば医療的にも経営的にもさらに伸ばすことができる地域です。求められる役割を果たしつつ、京都保健会の社会的使命に貢献したいと思います。

熊本県のくわみず病院と合同で 家庭医プログラム相互交流会を開催！

— 他流試合でレベルアップ！患者中心の医療を実感 —

京都協立病院 副院長
日本内科学会認定総合内科専門医
日本プライマリ・ケア連合学会指導医
日本リハビリテーション医学会専門医

玉木 千里

6月17日に京都民医連中央病院（京都市内）にて、熊本地震の際、救急受け入れなど懸命な医療救済活動を展開した「くわみず病院」と合同で、第2回目の家庭医プログラム相互交流会を開催し16名が集まりました。指導医である私と、ふくちやま協立診療所の寺本所長も参加しました。

ポートフォリオ検討会では5名の専攻医（京都3・熊本2）が「ご家族の思いを聞き取ることで共通基盤に立てた一例」「高齢者？」「家族が大変！」「2ヶ月続く呼吸苦で当院救急搬入された98歳女性」「鰻雑炊が食べたい」といった演題をテーマに発表が行われ、参加した指導医から「お互いに他流試合というか外の医師に見てもらうことが良い経験になっている。患者中心の医療をあらためて感じたポートフォリオだった。」などの講評が出されました。くわみず病院の医師からは「京都の先生方に専門的な視点でご助言、ご指導をいただきとてもありがたかった。こういう他流試合は自分の課題も含めてレベルが確認できるので今後も是非やりたい。」（専攻医）、「昨年の開催時よりも専攻医の力がついているように思う。熊本での研修が



それなりに充実してきたのではないか。」（指導医）と、引き続き研修の充実に向けて活力を得られた様子でした。今後も相互交流会を続けていく予定です。

また、私事ではありますが、今年3月に無事リハビリテーション医学会専門医取得が叶いましたので、ここに報告させていただきます。当院の地域における役割の1つにリハビリテーション病院としての役割があります。リハビリテーション医療は近年、特にニューロリハなどICTを取り入れた新しい医療機器の開発と

歩調を併せて大きく発展しており、専門的な知識と実践の機会が益々必要とされています。このように発展したりハビリ医療が一人でも多くの患者さんに届くよう精一杯尽力したいと考えていますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



New Energy

2年目専攻医
池田 徹

地域医療の現場で 「魅力」発見！

緑豊かな田園風景広がる綾部市は、京都市内から車で1時間30分程度。この地域には今も懐かしい里山の景色が残り、ゆったりと穏やかな時間が流れています。

専攻医2年目の池田徹と申します。わたくしは、「診療所での医療をやりたい」との思いから京都府立医科大学に進学しました。2014年に卒業後、出身地である長野に戻り長野医療生協、長野中央病院にて初期研修をしました。しかしながら、後期研修は学生時代のご縁などもあったことから、また京都に舞い戻り2017年4月より家庭医療の専攻医として京都協立病院にお世話になっています。

京都協立病院は、様々な魅力がぎっしり詰まった病院です。たとえば、病床機能面では、様々な症例を経験することができる一般病床だけでなく、地域包括ケア病床や回復期リハビリテーション病棟も完備されており、急性期の治療を終えられた患者さんが住み慣れたご自宅や介護施設に退院されるまでのプロセスを診ることができます。

また、ふくちやま協立診療所では、訪問診療も週1単位受け持っており、病院を退院された患者



さんが、その後どのような暮らしをされているのか、切れ目のないライフスタイルをみることもできます。家庭医や総合診療医を志すジェネラリストにとっては素晴らしい研修環境だと感じます。

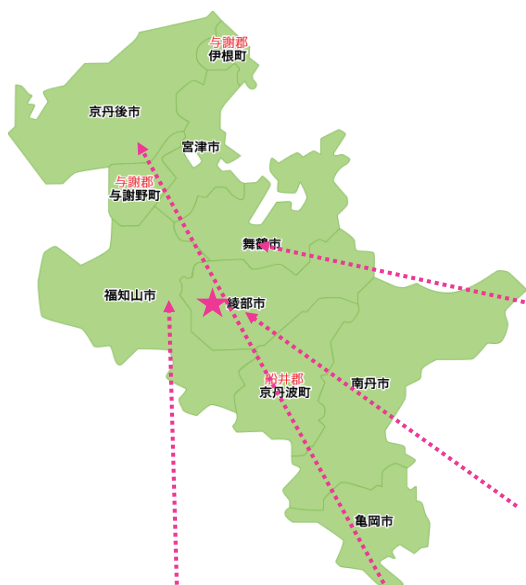
一方、病院内部に目を向けてみると、とりわけ医師に関しては、お世辞にも人員が充実しているとは言えないと思います。これは、当院個別の問題というよりも、医師の都市部集中の結果であり、多分に地域的な特徴を反映している問題だと思います。しかしながら、そういった環境の中でも指導医や上級医の先生は、とても熱心に指導してくださり、非常に密度の濃い充実した研修をしています。また、看護師さんなどコメディカルの方々も気軽に声を掛け合える家庭的な雰囲気で素晴らしい職場です。誰しもが「この病院で働きたい」そう思える病院だと思います。

緑豊かな田園風景の中に位置する京都協立病院、また都市部からも車で1時間30分程度。今も懐かしい里山の景色が残り、ゆったりと穏やかな時間が流れているこの病院は、魅力あふれる病院です。



医療・介護のネットワーク

北部事業所一覧



京都協立病院



2015年リニューアル

- ・あやべ協立診療所
- ・在宅ケアステーションげんき
- ・複合型きょうりつ併設



- ・まいづる協立診療所
- ・ふれあいステーションゆきわ



- ・ふくちやま協立診療所
- ・ほっとステーションきぼう



- ・たんご協立診療所
- ・訪問看護ステーションゆたかの



● 医師募集

常勤医師 内科、外科、整形外科、診療所所長

非常勤医師 当直、日直、外来等 募集しています。

問い合わせ先・詳細は

京都協立病院(事務局 吉田)

TEL(0773)-42-0440、 E-mail: info@kyoto-kyoritsu.org

ホームページもご覧ください。

<http://www.kyoto-kyoritsu.org/>



公益社団法人京都保健会 京都協立病院
〒623-0045
京都府綾部市高津町三反田1番地
TEL 0773-42-0440